

平成 25 年度 秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」運営評価委員会

特定非営利活動法人あきたパートナーシップは、秋田県ゆとり生活創造センターの指定管理者として、センターがさまざまな利用をしている県民の声を生かし、円滑に運営されるよう、管理方法や運営のあり方について評価・提言をしていただくため、「秋田県ゆとり生活創造センター運営評価委員会」を設置しています。

平成 25 年 7 月 4 日（木）開催の運営評価委員におきまして、平成 24 年度の評価・提言を頂きました。

運営評価委員

国際教養大学	前中 ひろみ
マックスバリュ東北株式会社	山本 まゆみ
NPO法人 あきた地域資源ネットワーク	鑑 啓 記
上北手地区振興会	嵯峨 兼信
秋田地区交通安全協会上北手支部	鎌田 勇
秋田県経営品質協議会	柿崎 博美
遊学舎活動サークル 秋和流大正琴カンタービレ	藤井 祥子

運営評価

(評価点数は 5 点満点の平均点です)

1. 管理業務の実施状況について		
	①施設の利用状況はどうか。	4.1
	②適切な管理運営を行う体制が整っているか。	4.8
	③適切な施設の維持管理がなされているか。	5
	④収支状況、財務状況は安全かつ健全か。	3.6
2. 企画運営について		
	①施設の設置目的に沿った運営がなされているか。	4.8
	②事業の実績状況はどうか。	4.6
	③利用者に対するサービス向上の取り組みがなされているか。	4.6
	④利用者の意見を反映した運営がなされているか。	4.8

総合所見

利用する県民から好評価を受けているのは、施設のサービスについて職員の努力のためもの。指定管理業務はもとより、多くの企画事業及び受託事業を実施して、市民活動を支えている点は評価できる。引き続きさらなる発展のために努力されることを望む。

施設の老朽化に伴う小規模な修繕費が今後も嵩むことが予想される。また、冷房の設置により光熱費が掛かり増しになっているが、その分は指定管理料には含まれていないため、今後も厳しい運営が余儀なくされることは目に見えている。利用者が増えれば増える程赤字額が増えていくという矛盾を払拭するため、管理システムや経費面について秋田県と前向きに話し合い、工夫して欲しい。

県における様々な分野の市民活動を支援する施設として、より高い顧客満足度を提供していくために、努力が報われ、社員の満足度が向上する仕組みに変えなければ秋田県に於ける NPO の拡大は望めない。